

IV 漁業の実態

1. 農林統計

ハマフエフキはフエフキダイ科に属し、農林統計では地方分類による“その他のたい類”に含められて集計されている。過去10年間の統計をみると、八重山地区における“その他のたい類”漁獲量は99～309トンであり、近年微増傾向にあったが昭和57年は276トンで対前年比72%である。

フエフキダイ類を対象に操業している漁船規模は、主に1トン未満船及び1～3トン階層の小型船である。八重山地区の3トン未満の動力船数は377～511隻であり、1トン未満階層の減少と1～3トン階層の増加傾向がみられるが、両階層を合すると昭和50年をピークに漸減傾向にある。また1隻当たりの漁獲量は0.29～0.88トンであり、これも増加傾向にあったが、昭和57年は0.55トンで昭和50年代前半のレベルになっている。

表9 八重山地区の“その他のたい類”漁獲量と3トン未満船の経年変化

| 平 | 48年 | 49年 | 50年 | 51年 | 52年 | 53年 | 54年 | 55年 | 56年 | 57年 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 漁獲量トンA | 218 | 149 | 99 | 240 | 237 | 344 | 366 | 365 | 369 | 267 |
| 漁船数 B | 377 | 511 | 511 | 490 | 457 | 488 | 425 | 425 | 415 | 483 |
| A/Bトン | 0.57 | 0.29 | 0.19 | 0.48 | 0.51 | 0.70 | 0.86 | 0.85 | 0.88 | 0.55 |

“その他のたい類”を対象とする漁業種類を表10にみると、一本釣、刺網、潜水器漁業等である。これから八重山地区574経営体のうち83%にあたる477経営体が、当該魚種を対象として従事していることとなる。そのうち一本釣が231体と最も多い。これらの漁業種類は種々雑多な沿岸漁業資源を漁獲しており、中でもハタ類、フエダイ類、アジ類、イカ・タコ類を主な漁獲対象としている。従って、これらの漁業による漁獲量1,812トンのうち“その他のたい類”の占める割合は僅か15%弱である。

表10 漁業種類別経営体数と漁獲量 昭和57年八重山地区

| | 刺網 | 一本釣 | その他の はえなわ | 定置網 | 潜水器 | 建干網 | その他 | 小計 |
|-------|-----|-----|--------------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 経営体数 | 60 | 231 | 1 | 11 | 19 | 2 | 164 | 477 |
| 漁獲量トン | 216 | 846 | 69 | 41 | 218 | 8 | 414 | 1,812 |

八重山海域におけるフエフキダイ類の主漁場及び産卵場について、八重山漁協所属の一本釣及びかご網専業の漁業者から、直接聞き取り調査を行ない整理した結果は図9の通りである。

ハマフエフキの産卵場は島回りの島棚上にあり、水深60～80mの平坦域に海底上から10～20m高くなったソネ域に限られている。代表的な例として西表島南風見崎南西方のタマンソネ、石垣島北東岸

玉取崎沖合のソネ、同島西岸川平石崎沖のソネがよく知られている。イソフエフキ、イトフエフキの産卵場は広く分布しているようで、黒島南、新城島西、ヨナラ水道水口、川平沖、平久保崎沖の各地がそうである。いづれもリーフの礁斜面に隣接しており水深20~30m域である。産卵期はハマフエフキ3~5月、イトフエフキ4~6月頃であるという。

一本釣、かご網等の漁場は図に示したとおり水深100m等深線からサンゴ礁に至るまで幅広く分布しており、特に産卵期には各ソネで集中した好漁が見られる。



図9 八重山沿岸におけるフエフキダイ類等の魚場と産卵場